

# 平成 30 年(第 46 期)事業計画

## 総務部

一般社団法人移行に際し、課題であった公益事業支出計画の執行を滞りなく完遂し、内閣府の確認がなされた。この結果、一般社団法人として本格的に活動をスタートする元年となった。食品業界を取り巻く環境は、HACCP や新 JAS 等といった課題が提起され、各所でその対応に追われており、当業界でも、諸々の課題に対応しつつ、一層存在感を示していく必要がある。一方で、独自性の追求および事業の選択と集中を行うこと、今一度、団体の本分に立ちかえり、一般消費者利益と会員の事業活動に有益となることを目的に活動を精査し行っていく。

また、引き続き「和食」に対する追い風は衰えることなく、国内外において様々な視点から注目を浴びている。昆布とともに“和食のだし”の要である“鰹節、節類”の主要団体として、行政および関係団体との対話・連携を図り、会員事業者へのサポート等、食品行政に対応した環境整備に努める。

(主な実施予定項目)

### (1) 重要事項

- ① HACCP 等行政施策への対応
- ② 海外まき網漁業協会、全国削節工業協会およびその他関連団体との交流強化
- ③ 全国鰹節類青年連絡協議会との連携強化

### (2) その他

- ① 会員の自主行動計画策定への周知および推進支援
- ② 一般社団としての活動内容方法を検討
- ③ 会員名簿の作成

## 情報宣伝部・広報部

### 流通改善部

訪日外国人は引き続き増加傾向にある。日本に滞在していく中で、日々の食事は最適な PR の場となる。日本食、“和食”を楽しむ上で、さらに適切な情報発信・提供が今後も重要になってくる。

鰹節、さば節、宗田節等“わが国の節類”は昆布とともに和食のだしの要でもあるこ

と、日本人の嗜好の根幹に今も息づくものとして示していくことは、業界の責務である。外国人への適切な情報発信は今後の輸出等の機会創出・保持のためにも重要であり、一層強化する必要がある。一方で、昨今、国内における食の欧米化は、メタボリック・シンドローム等国民の健康に大きな影響を及ぼしている。豊富な栄養素と低脂質等を合わせもつ鰹節類・削り節の役割を示し、健全な食生活のモデルをアピールすることは、国民生活への寄与、ひいては食育活動につながっていく。

和食の盛り上がりに応じ、国内の周知活動等今一度掘り起こし、未就学児童からの食育事業、高齢者層へ向けた栄養価溢れる節類の紹介等、各種イベントに対応して理解を深めていく。特に6月の食育推進全国大会（大分）、11月の農林水産祭実りのフェスティバルへ出展等行い、適切な情報発信に繋げていく。

このほか事業に応じた資材の開発・作成、既存アイテム類の精査・見直しを図り、有効活用していく。

（主な実施予定項目）

（1）重要事項

- ① 食育推進全国大会等主要イベントへの出展
- ② マスコミ等への適切な取材対応および情報提供

（2）その他

- ① 鰹節の Q&A の掲載等、HP の内容改訂
- ② 既存のアイテムの見直しおよび新規アイテムの開発・作成等
- ③ 小冊子の増刷
- ④ 他団体イベントへの協力、資材の貸出

## 技術研究部

鰹節安全委員会の活動を中心に、引き続き全国削節工業協会とともに、鰹節および節類の安全・安心に関して討議していく。そのために必要な分析・調査等諸取組を行っていく。これに加えて、鰹節・削り節が海外での円滑な流通を目指していく上で、新 JAS の活用等必要な検討も合わせて取り上げていく。

また全国鰹節類生産者団体連合会と連携し、必要な施策についても臨機応変に対応できるよう調整を図っていく。

ほか会員を通じた消費者への情報発信・告知等にも備え、準備をしていく。

（主な実施予定項目）

（1）重要事項

- ① 鰹節安全委員会の開催－製品の分析等調査・検討。製品規格に関する検討
- ② 鰹節の新 JAS に関する検討・調査
- ③ 全国鰹節類生産者団体連合会との連携・協力